

高温気象に備えたコンパクトで丈夫な稲づくり 健苗の育成、適正な田植えで初期生育確保！

○今後の天気（北陸の1か月予報（新潟地域气象台3月26日発表））
4月の平均気温は高い確率が80%。天候は数日の周期で変わる見込みです。

1 育苗後半～田植え作業のポイント

- (1) ハウス内温度や被覆資材の管理を徹底し、ヤケ苗やムレ苗の発生に注意する。
- (2) 育苗日数は20日程度をめやすとする（老化苗防止）。
- (3) 移植後の活着を早めるため、田植え3～4日前に弁当肥を施用する。
(N（窒素）1～2g/箱)
- (4) 下位分けつの発生を確保するため、小苗移植（1株4本）、浅植え（植付深2～3cm）とする。

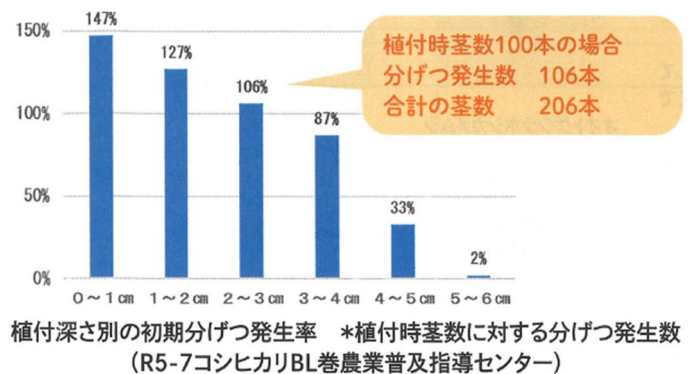
2 田植え後の水管理・除草剤

- (1) 活着するまでは水深3～4cmを基本とし、水温の上昇に努め、発根を促す。
- (2) 強風や低温の場合は4～5cmのやや深水とし、植え傷みを防ぐ。
- (3) 活着後は水深2～3cmのやや浅水とし、水温上昇に努め下位分けつの発生を促す。
- (4) 水の更新は早朝にかん水し、日中は止水して水温の上昇を図る。
- (5) 水田除草剤の散布後7日間は水尻を止め、田面の露出を避けるとともにかけ流しをしない等、登録内容を確認して使用する。
- (6) ワキの発生時は、田面水の入れ替えや夜間落水を実施する。

3 新之助栽培のポイント

- (1) 田植えは、平坦地では5月中旬頃をめやすとする（稚苗植えの場合）。
- (2) 適正な生育量に制御するため、栽植密度は50株/坪を基準とする。
- (3) 葉いもち防除（箱施用または水面施用）は、必ず実施する。
- (4) 前年と作付品種が異なるほ場では、漏生イネに対して効果の高い初期除草剤を処理し、その後7～10日間おきに有効成分を含む初・中期一発剤と中期剤を処理（3回処理）し、異品種混入防止対策を実施する。

植付深4cm以上は初期分けつ発生が極少
第1葉が埋まらないように田植えをする



メルマガ登録お願いします！！

FAX 送信は令和8年9月末で終了を予定しております。

- ① お名前、② 電話番号、③ メールアドレスを明記の上、
「県央稲作情報登録希望」と記載し、メールで申し込みください。
メール送付先：ngt112440@pref.niigata.lg.jp



メール送付先
QRコード